

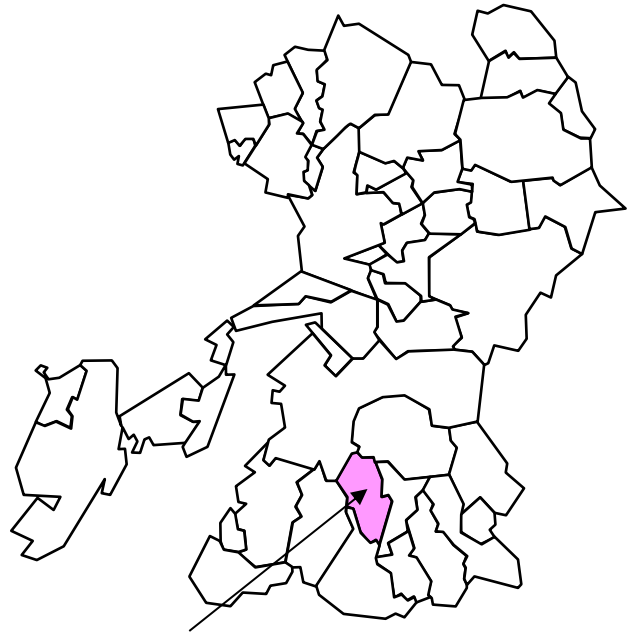
保険者を訪ねて

人が元気

自然が元気

地域が元気

山江村



山江村



《 山江村の概要 》 (令和 3 年 9 月末現在)

人 口		3,356 人
国保被保険者数		737 人
後期高齢者数		597 人
世 帯 数		1,204 世帯
	国保世帯数	464 世帯
医療機関等数	医科	0 機関
	歯科	0 機関
	調剤薬局	0 薬局

担当課・係	職 員	(うち専門職)
健康福祉課 保健衛生係	12 人	6 人
健康福祉課福祉係	7 人	2 人
健康福祉課戸籍係	2 人	0 人
健康福祉課 地域包括支援センター	5 人	4 人

※会計年度任用職員を含む。



取材の様子（健康福祉課の皆さん）

山江村は、熊本県南部（人吉 IC から 10 分）に位置し、のどかな田園風景と緑豊かな山々に囲まれた自然溢れる農山村です。農地を潤す豊かな山田川と美しく澄んだ清流の万江川を有し、土壌は肥沃な土地柄で大変おいしい米、野菜、果樹等が育ちます。万江川は、ヤマメや鮎などが生息する九州有数の清流です。「千畳の滝」を始め、水無地区の伏流水や石灰岩地層に特有の鍾乳洞も大小併せてたくさん存在しています。夏場になると中流域の吐合地区は川泳ぎやキャンプで多くの人々の憩いの場所となっています。本村は栗の栽培に力を入れており、栗の産地としても知られています。また、栗を使った特産品「栗まんじゅう」は村内外にファンが多くいらっしゃいます。

山江村

の国保被保険者数は年々減少傾向にありますが、65歳以上の国保被保険者数は増加しており高齢化が進んでいます。世帯ごとの所得水準は、所得階層別にみると、所得100万円未満の世帯数が全世帯数の約7割を占め、低い水準にあります。

本村に医療機関はありませんが、近隣の市町村には比較的多く存在し、利便性も良いことから、医療環境における課題は少ない反面、外来における1人当たりの医療費は熊本県平均を上回っており、医療費を押し上げる要因となっています。また、メタボリックシンドローム該当者・予備群が熊本県平均よりも多く、全体の医療費の上位は、がん、精神疾患、筋・骨格、糖尿病、高血圧が占めており、生活習慣病の発症予防・重症化予防が課題となっています。

近年は、国保保険料収納率や特定健診受診率の向上、それらに伴い保険者努力支援制度の交付金も増えたこと等から、国保事業の運営が安定し、基金の積み立てができる状況となっています。

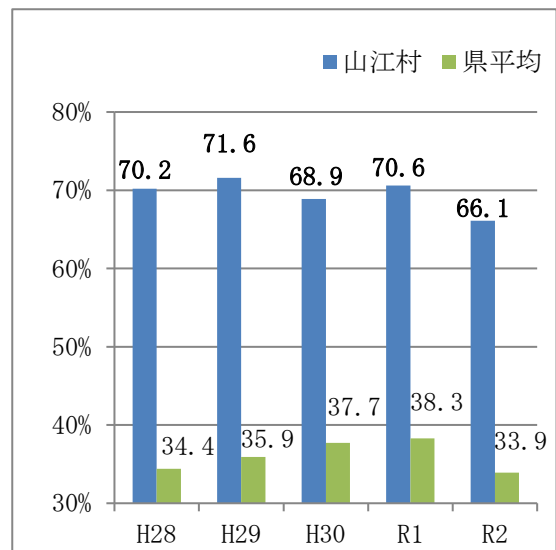
保健事業の取り組み

～特定健診の受診率向上に向けて～

本村の特定健診受診率（図1）は、平成24年度以降、65%以上を達成しており、熊本県内2位をキープしています。特定健診の受診体制の割合は、集団健診及び人間ドックが各々40%を超えている状況です。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に加え、7月豪雨災害による影響も懸念されましたが、多方面からの復興支援等もあり10月の集団健診は実施することができ、特定健診受診率も想定より高い66.1%となりました。

（図1）特定健診受診率



※各年度実施分結果報告（法定報告）より

地域の風土に合わせたアプローチ

特定健診の申込みについて、例年、事務職と専門職で各地区を巡回して「いきいき健康説明会」（図2）を開催し、健診の受診状況や医療費の適正化の説明、減塩みそ汁の試飲、高血圧や糖尿病予防について等の健康講話の実施に併せて、「住民健診申込書」の書き方の説明及び回収をしていました。令和3年度実施分は新型コロナウイルス感染症の影響で説明会等は中止し、1月下旬に全世帯に対して「住民

（図2）いきいき健康説明会



健診申込書」を送付し、2月中に各地区を巡回し回収しました。

特定健診の受診体制としては、①集団健診（10月中の休日を含む4日間）、②個別健診（5～12月）、③人間ドック（5～12月）、④情報提供事業（5～3月）の4つを整備することで、健診受診の機会を増やしています。①集団健診は、令和元年度まで福祉保健センター「健康の駅」で実施していましたが、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の対策の一環として、3密を避けるため山江村体育館に変更しました。②個別健診は、人吉市医師会加入協力機関で実施しています。①及び②においては、節目年齢（40、50、60、70歳）の方は、無料で受診できます。③人間ドックは、熊本市内と近隣市町内の4機関と契約しており、村からの一部助成があることから、多くの方に受診いただいています。

健診未申込者に対しては、4月以降、保健師・看護師による個別訪問や、広報誌、山江村ケーブルテレビ（令和3年3月31日現在で普及率約83%）等を活用し受診勧奨を実施しています。未申込の理由としては、「医療機関に受診中のため」等が挙げられますが、かかりつけ医での個別健診や情報提供事業を促す等、住民の健康状態の把握に努めています。

その他、20～39歳を対象としたリフレッシュ健診（基本健診）も実施しており、令和2年度は村全体で受診率56%と熊本県内においても高い水準にあります。長年、地域に根付いた健康に関する風土が、年代を問わず、健康意識を向上させ、健診受診にも好影響を与えているのではないかと考えています。

歯周疾患検診は、9～12月に節目年齢（20、30、40、50、60、70歳）の全住民を対象に、人吉市及び球磨郡の歯科医師会に委託して実施しています（70歳のみ無料）。以前は受診率10%程度でしたが、近年、10～11月に医療機関から中間の受診状況を情報提供していただき、未受診者に個別訪問を実施する方法に変更したところ、受診率が30%程度まで向上しました。

今後も、住民の健康増進、医療費適正化のため、地域の風土に合わせたアプローチを続けていきたいと考えています。

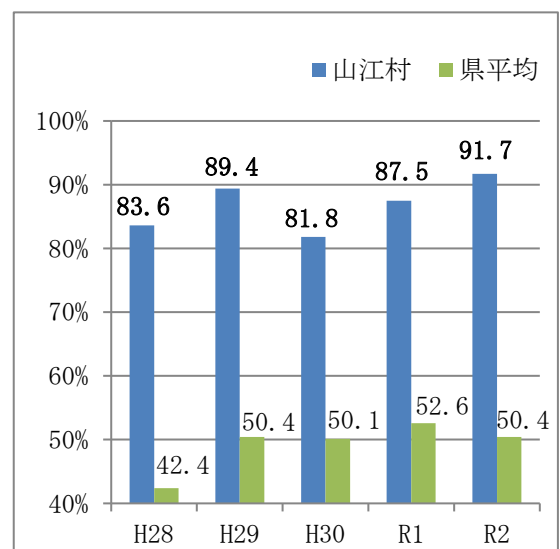
～特定保健指導と重症化予防～

個別訪問を通じた住民とのつながり

特定健診の結果説明会は、受診者の利便性を考慮し、村内2か所で11月に実施しています。欠席の方には、特定保健指導の有無に関わらず専門職（保健師2人、管理栄養士1人、看護師1人）による個別訪問を実施しています。不在の場合でも、訪問時刻を変更したり、置き手紙を投函する等、できる限り対面にて対応するよう努めています。

その甲斐もあって、特定保健指導実施率（図3）は熊本県内でも上位に位置し、住民の中には「行政がそこまで対応してくれるのなら、受けてみよう」といった行動変容に繋がるケースも

（図3）特定保健指導実施率



※各年度実施分結果報告（法定報告）より

あり、住民との信頼関係の構築、訪問指導の重要性を実感することもあります。

また、特定保健指導の内容によっては、担当者を変更する等、指導対象者に合ったより良いアプローチができるよう工夫もしています。

他にも、新たな取り組みとして、今冬から、タブレットを活用した保健指導を実施する予定です。

重症化予防

本村では、健診結果やレセプト等を基に階層化した名簿や糖尿病管理台帳を活用した重症化予防訪問を実施しています。医療機関未受診者や治療中断者を優先的に訪問し、特定健診の受診勧奨や医療機関への受診勧奨を実施しています。治療中の方には医療機関と連携し、下球磨地区（人吉市、錦町、相良村、五木村、球磨村、山江村）で作成した統一様式「重症化予防連絡票」を活用した効果的な保健指導を実施するよう心掛けています。

（図 4）からだメンテナンス教室



他にも、特定保健指導の一環として、令和 2 年度から月 2 回の 6 か月にわたる「からだメンテナンス教室」（図 4）（定員 5～10 人程度）を実施しています。外部委託の健康運動指導士による運動指導を中心に、保健師・管理栄養士による改善目標設定や保健指導も行っています。令和 2 年度は 4 人、令和 3 年度はリピーターを含め 8 人が参加しました。体成分分析器を活用し見える化したデータをもとに、参加者の大半に体重減等の数値の改善が見られ、お互いに切磋琢磨しながら、楽しく健康づくりに励まれました。

した。

上述の取り組みの結果、現在は、糖尿病性腎症による透析患者はいない等の一定の成果が出ていると分析していますが、現役世代の運動習慣が減っているといった課題にも気付きました。今後も、生活習慣病予防に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

健康づくりに関する啓発活動

健康づくりポイント事業

平成 30 年度から、18 歳以上の住民を対象に、健診、健康教室やウォーキング等の健康づくりに取り組むことでポイントを付与し、一定のポイントが貯まれば、村内の本事業協力店で使える商品券と交換するインセンティブ事業を実施しています。

令和 2 年度は 400 人に参加登録いただき、218 人が商品券に交換されました。

住民自身が、健康づくりへの習慣と関心を高めるため、より多くの方に参加いただきたいと考えています。

健康づくりポイントカード

令和3年度も健康づくりポイント事業を実施します!!
～さあ、みんなで健康生活～

健康寿命の延伸の実現を目指し、村民一人ひとりが目標を持つことにより健康づくりへの習慣と関心を高め、健康的な生活習慣の定着を推進することを目的としています。

◆健康づくりポイント事業とは?

健康づくりポイント事業は、18歳以上(ただし、高校生は除く。)の村民の方であれば、どなたでも参加でき、健康診断や人間ドック、健康相談、ウォーキング等健康づくりに取り組むことでポイントが貯まる仕組みです。

◆健康づくりポイント事業の対象活動にはどんなものがあるの?

健康づくりポイント事業の対象活動には、以下のものがあります。活動ごとにポイント数が決まっています。新たに追加されるときは、広報等でお知らせいたします。

	健康づくり事業	ポイント数
1	特定健診 健康診断	500
2	人間ドック	800
3	各種がん検診 (1健診につき)	200
4	包括支援センター 一事業 (1回につき)	100
5	健康教室 健康講座 健康相談 (1回につき)	200
6	献血 (1回につき)	200
7	栄養指導教室 栄養料理教室 (1回につき)	200
8	フットバス ウォークラリー (1回につき)	300

※公民館事業、こつこつ健康クラブ、にこにこ食の集い

【裏面へ】

【注意事項】

- ・健康づくりポイント事業に取り組んだ時は、主催者へこのカードを提示してください。ポイントシールをお渡しします。
- ・100ポイントで100円の商品券と引き換えできます。ただし、1,000ポイント以上でなければ商品券との引き換えはできません。
- ・年度内で交換できるポイントの上限は、3,000ポイントとなります。
- ・商品券引き換えの手続きは、山江村役場健康福祉課で行うことができます。
- ・このカードを利用できる方は、ご本人のみとなります。
- ・ポイントシール及びポイントカードを他の人へ譲渡することはできません。
- ・このカードを忘れた場合はシールをお渡しできません。

山江村役場 健康福祉課

TEL:24-1700

山江村健康づくり ポイントカード



登録: 年 月 日 登録番号:

住所 山江村

氏名

食育ランチョンマットの活用

本村では、これまで食育のターゲットを働き盛り世代にしていますが、近年、ヘモグロビンA1cの有所見者の割合が増加してきたことから、ターゲットを学童期も加えることに変更しました。まずは食の基礎を身につけてほしいこと、次に子どもを通じて家庭内の食習慣を見直してほしいという目的から、食育ランチョンマット(図5)を令和元年度に作成し、村内の小中学校の全生徒に配付しました。令和2年度以降は、5歳児健診の際に配付し、親子に周知・説明しています。

今後は、食育ランチョンマットを活用した事業展開を進めていきたいと考えています。

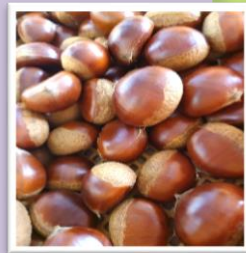
(図5) 特産の栗をモチーフにした食育ランチョンマット



まちの見どころ

栗

山江村といたら、栗！昭和初期より栗の生産が始まり、昭和52年にはその品質が認められ、昭和天皇に献上されました。中にはゴルフボールより大きい栗も採れます。平成31年には、山江村の宝である「やまえ栗」の条例も制定されました。



やまえ栗
HP



やまえ栗
PR 動画



山江温泉ほたる

山江温泉ほたるは、露天風呂やジェット風呂など12種類の温泉が楽しめ、心身のリフレッシュに最適です。宿泊施設も完備し、近くの物産館「ゆっくり」では、やまえ栗を使った上品な甘さのソフトクリームも味わえます。他に、大自然に囲まれた釣り堀があり、ヤマメ釣りを体験できます。

ヤマメ



山江村ヤマメ生産組合が、採卵から成魚に至るまで愛情込めて養殖しています。清流万江川の清らかな水で育ったヤマメは絶品です。



亀石

甲羅の模様が通貨に似ていることから金運の縁起物とされている亀。この石を撫でると金運・長寿・来福などのご利益があるかも。他にも蛙に似ている石や牛に似ている石もあり、珍しい石を巡るフットパスコースもあります。